

第 8 回リフレクション会議について(令和 6 年 11 月 13 日)

講師

- 一般社団法人 School Transformation Networking 代表理事 山口 裕也 先生

協議内容

- 子どもの主体性を育む教育について ～岩園小学校での公開授業を通して～

内容

第 8 回の会合では、岩園小学校で 10 月 25 日に行われた公開授業の報告を通して、子どもの主体性を育む教育についての理解を深めました。

この岩園小学校の公開授業は、県外を含め 70 名を超える方にご参加いただけただけでなく、その実践をメディアにも取り上げていただくなど、高い関心を寄せていただくことができたイベントとなりました。

リフレクション会議の中では、授業を公開をした 3 年生担任近藤教諭、4 年生担任松尾教諭、図工専科辰巳教諭の実践についての報告がありました。

どの実践においても、共通して大切にされていたのは、学習場所における「環境構成」です。例えば、3 年生の算数の授業では、用途ごとに使い分けができる様々な種類のはかりを用意したり、消防服やフラフープなど、工夫しなければ計ることができないような教材がたくさん置かれたりするなど、子どもが試行錯誤しながら体験的に取り組むことができるように工夫されていました。

4 年生の社会では、兵庫県の特産品が所狭しと並べられており、子どもたちが実際に手に触れることができるようにされていました。また、友達と相談しながら学ぶことができるスペース、一人でじっくりと調べることができるスペースなど、子どもたちの学び方に合わせた学習スペースが確保されていたのが特徴的でした。

5 年生の図工は光と影を使って空間を彩ることが目標でした。この実践では、図工室だけでなく、和室でも活動することが可能になっており、子どもたちが表現したいことに合わせて場所を選ぶ姿がありました。また、図工室には、様々な道具が設置されており、子どもたちは、選んだ道具によって変わる影の姿に驚きの声をあげながら取り組んでいました。

どの実践においても、場所や教材などが複数設定されており、子どもたちが自分の興味関心に応じてそれらを選択しながら活動することができたということが共通する特徴となっていました。

授業者が調査したアンケートによると、こうした授業では、「主体的に取り組むことができた。」と回答する子どもの割合が、教師主導型の一斉授業に比べ、高かったことが報告されています。

また、単元末に実施するテストにおいても、思考力を問う問題において高い正答率が見られたとの報告もありました。

講師の山口先生からは、教科のねらいや、教科特有の見方・考え方を授業者がしっかりと持った上で授業設計をすることで、子どもたちの主体性を育みながらも確かな学力を合わせて身につけていくことができるとの助言をいただきました。

